



編集・発行
 熊本県立菊池農業高校
 同窓会 事務局
 TEL 0968-38-2621
 題字：越猪 忠祐
 (同窓会顧問)
<http://www.higo.ed.jp/sh/kikuno/>
 印刷
 株式会社 かもめ印刷

早急な山林登記及び本会の躍進を目指して 同窓会の法人化を実現しよう

同窓会長 工藤 靖成



「緑水会」に決定 菊池農業高校同窓会愛称

会員各位におかれましては益々ご隆昌の事とお喜び申し上げます。さて昨年の総会時に同窓会購入の山林が未登記になっていることについてご報告致しましたが、現状と今後の方向づけについてご提案をさせていただきます。



◆昭和三十九年十一月九日に当時の旭志村より、菊池市重味にある山林・八町三反七畝を菊池農業高校同窓会が購入した。
 しかし、法的認可のない単なる集団名では登記をすることが出来ないために現在帳簿上は菊池市の財産となっている。
 ◆昨年（平成十九年一月）福村菊池市長・宮崎菊池農校長・私の三者で「売買契約に基づく所有権の確認書」に捺印し、本校同窓会の所有物であることの確認はできましたが、これはあくまで一応の形をととのえたのであり、正式な登記の必要性を痛感しています。
 ◆このような事例は他の県立高校でも幾つかあります。近年の事例では芥明高校（旧天草農業高校）が処置に困り同窓会を法人化して登記を済ませています。
 ◆法人化することで幾つかのデメリットもありますが（手続き費用が必要・帳簿上面倒な部分がある）この際法人化を是非実現し、正式な登記をすることが急務と考えています。

◆一口に法人と申ししても沢山の種類がありますが、同窓会に最もふさわしいのが【有限責任中間法人】のようです。
 ◆今回の総会でご提案を申し上げ本年夏までには法人登記を済ませ、この秋には山林の登記を実現したいと考えています。
 ◆現在の山林の状況としては、取り付け道路は育友会の奉仕作業でコンクリート舗装となりました。日頃の管理は育友会が中心となり保全されていますが、雑木林のために資産価値は問えません。しかし水源涵養林としての働きは充分

なものであると確信しています。数年前までは農業科の諸君がシイタケ栽培をしていましたが、最近ではあまり活用されていないようです。
 今後の活用方法は不透明な部分がありますが、先輩諸氏が残していただいた貴重な財産ですので、大切に継承していくことが我々の責務であると思います。
 広く皆様方のご意見を頂きながらよりよき活用を模索いたします。

菊池農業高校を卒業して二十年が経とうとしています。我家では酪農を家族で経営しており、現在、搾乳牛三十頭、育成牛二十頭を飼養しています。
 菊農での三年間でまず思い出されるのは、一年生の時の寮生活です。入学式終了後、見ず知らずの人とのいきなりの共同生活、不安だらけで始まった寮生活も一年後には、ホッとする気持ちと、寂しい様な気持ちが入り混じっていました。時には先生から呼び出されて

出席しました。幸いに本校は再編整備の対象校とはされませんでした。が、安閑としておればいつでも奈落の底に落とされる緊張感を覚えました。
 今年の八月には、基本計画案と前期実施計画案が公表され、十月二十六日には、「基本計画及び前期実施準備計画」として決定されました。
 私はまさに、本校に奉職させて頂いた四年間にわたり、この高校再編整備と対峙していたことになりました。ありがたいことに、県教委が行った県立高校に対する中学校からの意見照会では「菊池農高の各学科を更に充実し、地域の子どもが地域の学校で学び、且つ、地元での人材育成を図ってほしい」とありました。

その理由として「菊池地域は農畜産業が盛んで、伝統的な郷土料理も豊富である。商業や観光産業の確保など、あらゆる面で勉強になる事ばかりでした。これからの「他人の釜の飯を食う」という他の高校では体験できない、貴重な現場実習を続けていただきたいと思いをします。
 しかし、毎年実習生の受け入れを断る事がある。学校で「牛のお産」を見た事がないという生徒の多い事です。
 最近、近くの小学校から「児童に牛のお産を見学させてほしい」という依頼がありました。生命の誕生の瞬間を直接見せる事で、命の尊さを児童と一緒に考えたいという事で計画されたそうです。
 私も菊農在学中は、牛のお産に何度か立ち会い、そして死にも直面してきました。こういった事も農業高校でなければなかなか体験できる事ではありません。
 小学校からは、授業時間の入れ替えをしても見せてあげたいという事でしたが、お産のタイムイングなどもあり、まだ実現はしていません。私は畜産科の生徒だから

県立高校再編整備の荒波の中で

校長 宮崎 堅正



海原の荒波にもまれる小舟の状態におかれています。校種や規模や歴史等にかかわらず、等しく検討の対象校とされました。将来にわたって安泰の学校はありません。私が本校に赴任した十六年の十一月に教育整備推進協議会が設置され、その最終報告が十八年三月にありました。それを受けて七月には、基本計画案が公表され、今年五月には、第二次案及び前期実施計画案が公表されるに到りました。

並行して地域説明会が実施されることとなり、同窓会長の工藤先生やPTA会長さんと一緒に教回

から名産品等の開発が望まれ、小中学生のニーズも高い。後継者確保の観点からも菊池農高の特性を更に期待する」とありました。これらの好意的な声を寄せて頂くのも、同窓会を始めとする地域の皆様の御理解と熱い御支援の賜と感謝しております。
 「学校の活性化に秘策なし」が校長としての私の座右の銘であります。校長として、愚直にして強かに「入学生員確保・充実した高校生活の保障・卒業生の活躍」の三本柱に向かつて邁進する四年間でありました。

同窓会の皆様からは、吹奏楽部の楽器やマイクロバス購入等々物心両面にわたる御援助を頂きまじなかつたことをお許し下さい。
 最後に、緑水会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げます。感謝の言葉と致します。

プラスアルファの菊農へ

昭和62年畜産科卒
西 文宏



受けてお叱りを受けたり色々ありましたが、忘れられない思い出になっています。
 現在は、一年を通しての寮生活がなくなったと聞き、少し残念な気がします。
 今でも菊農在学中を思い出させてくれる事があります。「現場実習生の受け入れ」です。今年も九月に二名の受け入れをしました。
 私が在学中の実習先は神奈川県で出発の日の夕方、熊本駅で夜行寝台列車に乗り込み、明け方車窓に富士山をのぞみ到着。
 実習先周辺では、都心に近いという事もあり、住宅が建ち並び、環境問題などの観点から周辺住民への配慮が徹底されていました。
 そして循環型農業への取り組み、当時畜産農家には難しかった余暇

の確保など、あらゆる面で勉強になる事ばかりでした。これからの「他人の釜の飯を食う」という他の高校では体験できない、貴重な現場実習を続けていただきたいと思いをします。
 しかし、毎年実習生の受け入れを断る事がある。学校で「牛のお産」を見た事がないという生徒の多い事です。
 最近、近くの小学校から「児童に牛のお産を見学させてほしい」という依頼がありました。生命の誕生の瞬間を直接見せる事で、命の尊さを児童と一緒に考えたいという事で計画されたそうです。
 私も菊農在学中は、牛のお産に何度か立ち会い、そして死にも直面してきました。こういった事も農業高校でなければなかなか体験できる事ではありません。
 小学校からは、授業時間の入れ替えをしても見せてあげたいという事でしたが、お産のタイムイングなどもあり、まだ実現はしていません。私は畜産科の生徒だから

けでなく、菊農の全校生徒に、先の小学校の様に授業時間の入れ替えをしてでも見てもらいたい体感してもらいたいと考えています。
 菊農での授業・実習はもとより、卒業してこれまで、様々な人との出逢いで、今までの経営でいいのか色々考えさせられました。『自分にとって、家族にとって、牛にとって、消費者にとって、理想的な酪農とはどんな形なのか』いまだ、答えは見つかりませんが、その時その時の、一つ一つの積み重ねが理想に近づけるものと信じ、進んで行こうと思います。
 そして、教科書を使った授業や実習に留まらないプラスアルファの菊池農業高校を心から希望します。



菊農フェスタ



第九回全国和牛能力共進会 和牛審査競技会(高校生の部)

おめでとう!! 日本一!!

初代全国チャンピオン

畜産科学科三年 安永 未可子



今回は十月十一日〜十四日に鳥取県で行われた第九回全国和牛能力共進会和牛審査競技会高校生の部で最優秀賞を獲ることができました。この競技は黒毛和種成雌四頭の中でどの牛が一番よい牛なのかを審査する競技です。項目と

また同じ会場で行われた全国和牛能力共進会も行われました。この競技は、全国三十八道府県から種牛三三三頭、肉牛一八一頭の合計四九四頭の牛たちが集結します。その中で年齢別に一〜九区分に分けられ、それぞれ審査委員が審査します。熊本からは天草、球磨から出品されていきました。どの牛もよい牛ばかりでとても迫力がありました。また、五年に一度の開催とあって常陸宮様、華子様をはじめ、多く

農業クラブ

九州学校農業クラブ連盟事務局 顧問 竹ノ内誠一

学校農業クラブは、一九五〇年に日本学校農業クラブとして生まれました。これは、戦後の農業教育に米国のホームプロジェクト法というプロジェクト学習を導入し、高校生の自主性を育て、自発的な活動を進めることでした。その後活動目標を「社会性・指導性・科学性」を高めることとして活動を展開してきました。平成十九年度、本校は、この活動を運営するために、九州学校農業クラブ連盟と熊本県学校農業クラブ連盟の事務局となり九連の会長に畜産科学科三年の小重萌実さんが、県

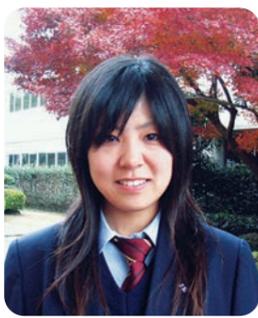
の人たちが県内外から来られていました。一方、会場の外ではトラクターや餌など牛に関係する物や、鳥取や近隣の特産物がたくさん並んでいてとても賑わっていました。私が、今回最優秀賞を獲ることができたのは、先生方や畜産市場の皆様のご指導があったことだと思っています。十月十一日全国大会本番、最優秀賞者で私の名前が呼ばれた時は本当にびっくりしました。高校三年間、きつい実習や朝早くから牛を洗ひ続けてきたこと、家畜審査に参加し続けてきたことが無駄ではなかったと心から思えました。

今、私は在籍する畜産科学科で大家畜を専攻し、牛クラブに入っています。牛クラブとは、牛についての勉強を重ね共進会での上位入賞を目標に活動している同好会です。毎日朝早くに農場へ行き牛洗ひや調教を行い、自分たちで毛刈りをします。また、共進会本番では牛を引くことも自分たちで行います。そして十一月十二日から静岡県で開催された全国ブラック

アンドホワイトショーに一頭参加する事ができました。私たちは家畜を飼育し、その家畜の命をいただいています。この尊い命を忘れず進学先の熊本県立農業高等学校でも頑張っていきたいと思います。そして将来、消費者の方々に「牛にも命がある」ということを知ってもらえるような牛飼ひになりたいです。

3年間の農業クラブ活動を振り返って

生活文化科三年 藤川 美寿希



私の農業クラブ員としての活動は、矢のようにあっという間でした。一年生の時、熊本農業高校が事務局校だった年次大会を視察に行きました。軽い気持ちで参加していた私は、「一体この大会は何?早く帰りたい」としか思っていました。夏になり、自分が県連会長候補となってからも、特別な活動をする訳でもなく大きな大会の事務局になる自覚など全くありませんでした。だから私は、何の焦りもなく平凡に学校生活を送っていたのです。今思うと、なんてお気楽な性格なんだと怖くなりました。

そんな調子で三年生になり、ついに菊池農業高校が事務局になる年を迎えました。会長としての最初の仕事は、県のリーダー研修会です。今までは、旅行気分に参加していた自分が熊本県の他校のクラブ員を招いている……この時をきっかけに「自分は県連の会長な

進路状況 (平成19年3月卒業生)

Table with 2 columns: 進路先 (Career Path) and 就職 (Job Placement). Rows include Agricultural, Horticultural, and Livestock Science departments with specific university and job placement statistics.

んだ」という意識と自覚ができて、本格的に県大会に向け打ち込む自分になれました。しかし、大会本番までにはいろいろな出来事があり、「自分には会長は無理なのかもしれない」と何度か思いました。でも、その時、心に繰り返し溢れてきた思いは「今ここで逃げたら、一生何事からも逃げる事になる。それが今日まで、共に頑張ってくれた仲間を裏切る事になるんだ。」という事でした。それでも、準備や打ち合わせが十分にできなかった為、ドキドキで迎えた大会当日は、夕方の大雨と風がより一層今の自分達の状況を表しているようで、不安で一杯になりました。その夜、顧問の中西先生に「足を引っぱるだけですみません」と謝ると、先生は、「そんな心配はしなくていいから、お前は自分の挨拶の事だけ考えよ」と言われたのです。その言葉を聞いて、失敗してもいいから絶対にこの大会を皆の心に残そう!と思いました。でも挨拶文は未完成のまま最終日を迎えました。私の気持ちに焦りは少しもありません。来賓の方々と一緒に太鼓部と吹奏楽部のオーブニングセレモニーを鑑賞していると、涙がとまらな

緑水会事業報告

- 2/14 明日からの営農を語る会
2/23 同窓会報配布
2/28 同窓会入会式及び卒業記念品贈呈
3/1 卒業式
3/18 監査 同窓会役員会
4/9 入学式
4/9 合志市会議員候補 推薦状配布
4/20 追間支会総会
4/28 熊本支会総会
5/23 芥明高校研修 法人化に向けて
7/13 農業クラブ県連年次大会
7/19 三役会・育友会役員との懇談会
7/21 植木支会総会
7/27 七城支会総会
8/30 九州農業クラブ連盟記念大会
9/3 農業経営者育成後援会総会
10/7 菊農フェスタについて三役会菊農フェスタ
11/11 上田農業賞候補者宅訪問
11/26

事務局だより

菊池農業高校同窓会愛称「緑水会」に決定

「緑水会」の法人化

山林未登記問題に向け始動中

学校紹介記事

毎日新聞に掲載

平成19年11月11日(日)

マイクロボス

(育友会所有) 購入資金貸し付け



上田農業賞受賞者

- 松岡清子氏 (昭和44年度 生活科卒)
後藤 勝氏 (昭和58年度酪農科卒)
佐々和宣氏 (平成6年度畜産科学科卒)



熊本県学校農業クラブ連盟年次大会(菊池大会)